

「立花容器の森」植栽活動報告



木とともに…

当社は大正4年に「立花製樽所」として、倉敷市玉島で創業し、創業106年になります。創業当初から木製の樽や桶を製造しており、100年を超える時を木と共に歩み、今日もこの火を絶やさず守り育ててきました。私たちの原点である木を「使わせていただく」代わりに「山に木を育てる」お手伝いをしたいと考え、植栽活動に取り組んでいます。



2000年に“ISO14001”の認証を取得以来、森づくり活動を行って今年で22年目となります。2010年に「企業との協働の森づくり事業」に賛同し、本社のある地元矢掛町の森を豊かにしたいという思いから矢掛町の町有地である高妻山の亀島キャンプ場周辺の0.5haの土地を「立花容器の森」としてお借りし、ここでの活動を始めました。2020年にこの協定を10年延長し、2030年まで活動を継続しています。ヤマザクラやイロハモミジ・ヤマモモなどの苗木を植樹し、これらの苗木が元気に育つよう現在では、社員・家族と一緒に下草刈を行っています。地域住民の方々の憩いの場でもあるキャンプ場の入口でもあるので、景観が損なわれないよう彩ある広葉樹の木々を育てることで、企業の社会貢献を目指しています。環境保護活動として、元気な森を育てることで二酸化炭素の吸収量が増え、排出量の削減に繋がっていくよう今後も継続的に活動を行っていきます。



「立花容器の森」活動報告

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和2年度
植栽	390本	390本	300本	300本	9本	-	-	-	-	-
下草刈	0.1ha	0.2ha	0.3ha	0.4ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha
Co2吸収量(t-Co2/年)	078	1.18	1.58	1.98	2.03	2.07	2.11	2.09-	2.13	-
活動人数(述べ)	122名	155名	145名	99名	168名	88名	84名	82名	84名	102名

EMS-02-21

環境方針

制定日：2020年06月09日

環境基本理念
当社は、地球環境の保全が人類共通の重要課題であることを認識し、企業活動のあらゆる面で、地球環境の継続的な改善及び汚染の予防に配慮して行動する。

環境方針
当社は、容器製造に携わる企業として、以下に基づき環境マネジメントシステムの継続的な改善及び汚染の予防を推進し、環境保護に対して協力していくことを約束する。

- 当社の事業活動、製品又はサービスによる環境への影響を評価し、重要な項目については、技術的かつ経済的に可能な範囲で、目標を定め、これを実施し、その結果の是正しを行って、環境パフォーマンスを向上させるための環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。
- 関連する環境法規制及び受入れを決めた協定を遵守する。
- 当社が行う事業活動の全段階を通じて、環境に与える影響の中で、特に以下の項目について、優先的に環境保全活動を推進する必要性を認識して、全社的活動として行動する。
 - 環境に配慮した製品の提供・開発を図る。
 - 資源リサイクルの徹底を図る。
 - 電気エネルギーの使用効率の向上を図る。
 - 環境保護活動へ参加する。
- 全従業員に対し、環境に関する教育及び意識向上活動を実施する。
- 環境方針は、文書により全従業員に周知させ、社外にも公開する。

以上
立花容器株式会社
代表取締役社長 岡野 邦男

立花容器が取り組んでいる 国連持続可能な開発目標(SDGs)

3 3 すべての人に健康と福祉を

森でリフレッシュ
森林が安らぎの場であることから、森林浴や森遊びの提案を行います
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進します

4 質の高い教育をみんなに

森の出張授業
桶樽の製造技術を使った楽器作りや木製パズルでの遊びを提供します
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進します

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

省エネ企業
省エネ設備や車両の導入と効率の良い生産、ロスの削減に努めます
すべての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保します

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

ごみを資源に
今まで廃棄するしかなかった樹脂ごみのリペレット事業に取り組めます
強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図ります

12 つくばない 責任

ゼロエミッション
無駄の削減と工場内リサイクルを推進し、ゼロエミッションを目指します
持続可能な生産消費形態を確保します

14 海の豊かさを守ろう

河川の清掃
地域とともに、生活ごみが蓄積していた溜川をきれいにしていきます
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用します

15 陸の豊かさも守ろう

森林保護活動
苗木コンテナー等の商品開発と会社ぐるみの植栽活動により森林保護活動に貢献します
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止します

17 パートナリシップで目標を達成しよう

環境商品の開発
お客様に仮説を提案しながら、一体となって環境配慮商品を開発します
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化します